次期学習指導要領 教科別まとめ　　中学校 No.09

審議まとめ（2026年10月5日）を**中学校の先生向け**にまとめ直しました

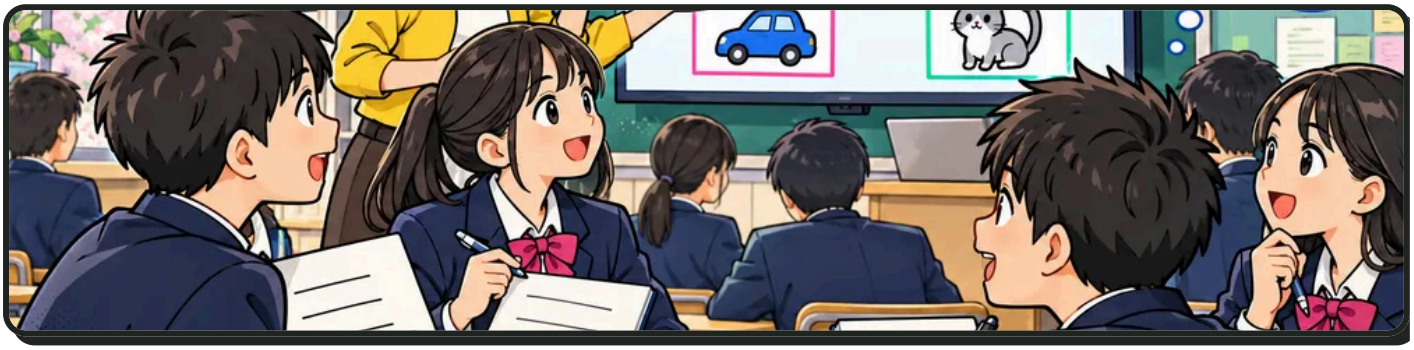
外国語（英語）

次期学習指導要領で、どう変わる？

AI時代も人と伝え合う力を　段階を追って育てる英語へ

中学校版





10秒でいうと　文法事項は使用頻度の高いものに絞る。「社会的な話題」は「身近な社会的な話題」に

やさしく言うと

中学校では、教科書の語彙や文法が難しくなりすぎたという指摘を受け、負担を適正にする方向です。国が「基盤語彙リスト」を作り、文法事項は使う頻度の高いものなどに絞る案です。「社会的な話題」は「身近な社会的な話題」に改める方向です。中1の初めは小学校とつなぐため、音声中心の活動を重視します。授業を生徒の理解に応じた英語で行うことは続けるとされています。

中学校はいつから？

全面実施	2031年度（令和13年度）から（見込み）
移行期間	2028～2030年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2031年度から新しい教科書（2029年度に検定）

この冊子の中身

1 外国語（英語）のポイント　4つ
2 主な変更点　34項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　17項目
4 目標の新旧（現状→改善イメージ）
5 語彙（単語の数）はどうなる？
6 CEFRレベルの目安
7 評価はどう変わる？
8 国が用意するもの（支援）
9 生成AI・ICTとの付き合い方　13項目
10 今からできる準備チェックリスト　18項目
11 次期を先取りする授業アイデア　13本
12 指導案（試案）　2本
13 現行の学習指導要領・解説（中学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

外国語の3行要約（全校種）

1. 「言語活動」を「コミュニケーション活動」と「それを支える活動」に分け直し、英語の目標は「知・技」「思・判・表」「学びに向かう力」の3つの柱で示す方向。
2. 国が基盤語彙リストを作り、中学校の文法は使用頻度の高いものに絞り、「社会的な話題」は「身近な社会的な話題」にするなど、難しくなりすぎた内容を適正化する方向。
3. 高校の科目は「英語コミュニケーション（総合）」「同（発信）」（いずれも仮称）とする案。B2レベル相当以上などの要件を満たす場合の必履修科目の免除・振替や、AIの適切な活用の明記も提案された。

※高校の新科目名「英語コミュニケーション（総合）」「英語コミュニケーション（発信）」は仮称。単位数（学習量）は現行と同じ。外部試験でCEFR B2レベル相当以上の英語力を確認することなどを要件に、英語コミュニケーション（総合）Ⅰの免除・振替を学校の判断で可能とする案。対象試験・振替先・実施条件は今後、解説等で具体化（P48～49、P284）。

1 外国語（英語）のポイント

4つ

1 語彙と文法をしぼり、難しさを適正に

中学校では新しく学ぶ語彙も文法事項も増え、教科書が難しくなったと指摘されています。国が大量の英文データなどをもとに「基盤語彙リスト」を作り、教科書での使用を勧める方向です。文法事項も、よく使うものなどを本文で示し、指導の対象を絞る案です。 P277 P283

授業では、たとえば たとえば、よく使う文法は場面を変えて何度も使わせます。使う機会の少ない用法は深追いしないなど、強弱を付けた計画が考えられます。

2 「身近な社会的な話題」で意見を言う

今の「社会的な話題」は、外国語の学習としては難しい例が多いとされています。そこで「身近な社会的な話題」とし、生徒が自分と結び付けて考えられるものを中心に例を示す方向です。話題は、身近なものから少しずつ抽象的なものへ進める考え方です。 P283 資料編(3)P30(外㉚)

授業では、たとえば たとえば、健康的な食生活やスクリーンタイムなど、自分の生活から意見を言える話題で短い意見文を書くことが考えられます。

3 中1の初めは音声中心で、小学校とつなぐ

中1の初めは、小学校の指導と関連させて音声中心の活動を重視します。小学校で扱った話題や表現を繰り返し扱い、3年間を通して発音と綴りを結び付けて丁寧に指導することが示されています。小学校では書き写しや例を見て書くまでにとどめている点もふまえます。 P281 資料編(3)P19(外⑲)

授業では、たとえば たとえば4月は、小学校で使った自己紹介の表現を声で十分にやり取りします。そのあと、語順を意識して書く活動へ進むことが考えられます。

4 授業は英語で。AIは吟味しながら使う

「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」は続ける方針です。国が教室英語の表現集や動画を用意し、補助的な日本語の使い方も解説で示す方向です。AIは例文づくりなどに役立つ一方、出力をうのみにせず吟味し、人と人との伝え合いにつなげることが原則とされます。 P282 P284

授業では、たとえば たとえば、生成AIに自分の好きなことを使った例文を出させます（先生が作った例文を示す形でもかまいません）。自然な英語かを友達と確かめてから、実際に伝え合う流れが考えられます。生徒が使うときは、学校が認めたサービスを、年齢制限や保護者の同意を確かめたうえで先生の指導の下で使い、名前や写真などの個人情報は入力させません（文部科学省の生成AIガイドラインP19）。

2 主な変更点

34項目

1. 中 英語の目標を3つの柱で

英語の目標は「英語の特徴やきまりを理解し活用できる技能」「様々な話題について簡単な情報や考えを理解・表現・伝え合う力」「興味・関心を持ち、対話・協働で考えを広げ深め、学習を調整し、相互理解を深めようとする態度」の3つの柱で示すイメージ。 P279 資料編(3)P39(外㊴) 資料編(3)P44(外㊹)

2. 中 「内容」は第1～第3学年相当の目安つき

聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書くの領域ごとに「話題」「条件」「できること」を並べ、学年相当の目安を付けて示す。例：話すこと（やり取り）は即興で伝え合う、整理して伝え合う、聞いたり読んだりしたことを基に考えや理由を伝え合う。 資料編(3)P8(外⑧) 資料編(3)P44(外㊹)

3. 中 「身近な社会的な話題」に変更

「社会的な話題」を「身近な社会的な話題」にし、例として健康的な食生活、スクリーンタイム、皆が過ごしやすい学校づくりなどを挙げる。フェイクニュースや国際協力なども生徒が自分と関連付けられるよう工夫する。身近な社会的な話題は資料編の段階表で「後半以降」に扱うことが想定され（学年内の具体的な段階付けは告示・解説で別途検討）、即興のやり取り・発表の対象にはしない。 P283 資料編(3)P30(外㉚) 資料編(3)P44(外㊹)

4. 中 文法事項を絞る

前回改訂で文法事項が増え、教科書に難しい用法も入ったという指摘を受け、使用頻度の高いものなどを本文で具体的に示し、指導対象を絞り難しさを適正にする。 P277 P283

5. 中 語彙の負担を適正に

中学校の教科書では難しい語彙が増え、語彙選定にばらつきがある。国の基盤語彙リストで教科書の語彙の難易度と選定をならし、負担を適正にして重要な語彙を身に付けられるようにする。 P277 P283 資料編(3)P29(外㉙)

6. 中 中1の初期は音声中心で

中1の初めは小学校の指導と関連させて音声中心の活動を重視し、小学校で扱った話題や語句・表現を繰り返す。小学校では書き写しや例を参照して書くまでにとどめていることを踏まえ、語順を意識して書くよう丁寧に指導する。3年間を通して発音と綴りを結び付ける。 P281 資料編(3)P19(外⑲) 資料編(3)P21(外㉑)

7. 中 授業は「生徒の理解に応じた英語」で

「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」は堅持する。国がクラスルームイングリッシュなどの表現集や動画を提供し、補助的な日本語使用や母語使用の考え方を解説で示す。 P276 P284

8. 中 単元づくりの例：My Favorite Food in ○○

資料編には中2相当の単元例がある。目的は「日本に来たことがない海外の生徒に『食べてみたい！』と思ってもらう」。接続詞（because, when, if, that）を学び、クラスメイトやALT、海外の生徒とオンラインで紹介し合い、パフォーマンステストを含めて9時間で構成する。 資料編(3)P12(外⑫) 資料編(3)P13(外⑬)

9. 中 自分の意見・地域・日本を伝える話題

中学校の例として、校則など学校の課題への意見、健康的な食生活やスクリーンタイムについて意見を書く、ALTに日本の生活を説明する、留学生に地域のおすすめの場所を紹介する、姉妹都市の生徒に地域のつながりを発表する、などが示されている。 資料編(3)P25(外㉕)

10. 中 日本語と英語の違いに気付かせる

コミュニケーション活動と支える活動の中で、日本語と英語の音声・語彙・文構造・文法・論理の展開などの違いに気付かせる。相手の文化的背景に配慮したコミュニケーションの大切さも理解させる。 資料編(3)P27(外㉗)

11. 中 支える活動の具体例
特定の語彙や文法を簡単なやり取り・発表・書くことで使う、意味や使い方に気付く・理解する、語句や表現を覚える、流暢性を高める活動など。導入した語彙や文法をすぐ話せる・書けることを求めず、聞く・読むで理解する段階から話す・書く段階へ発展させる。資料編(3)P31(外㉛) 資料編(3)P34(外㉞)

12. 中 学年ごとの目標の作成義務をなくす方向
現行は3学年間を通じた学年ごとの目標を各校が定めるが、審議まとめでは一律の作成義務をなくし、任意とする方向が示された。P280 資料編(3)P19(外⑲) 現行現行抜粋P25

13. 中 全面実施は令和13年度から（想定）
中学校の全面実施は令和13年度～が想定されている。P38

14. 英語の目標を「3つの柱」で示す
現行の英語の目標(高校は科目目標)は「聞くこと」など5つの領域別に書かれていた。次期は外国語の目標と同じように「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で示す。領域ごとの細かい「できること」は「内容」の方へ移す。P279 P280 資料編(3)P16(外⑯)

15. 「内容」を学年段階の目安つきの表で示す
領域別の目標の要素を「内容」に移し、話題や活動がだんだん高度になる様子を、「〇学年相当」という目安とともに表形式で示す。学年ではっきり区切るのではなく、柔軟性を残した目安とする。表は「知・技」と「思・判・表」を並べる「並行」パターン。P280 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P18(外⑱)

16. 小 中 学年ごとの目標の一律の作成義務をなくす方向
学習指導要領自体が段階的な内容を示すようにするため、これまで各学校に求められていた「学年ごとの目標」の一律の作成義務はなくすべきとされた。必要な場合に学校が任意で作る位置付けになる見込み。P280 資料編(3)P19(外⑲)

17. 「言語活動」から「コミュニケーション活動」へ
学習の中心を「コミュニケーション活動」(主に思・判・表を育てる)と「コミュニケーション活動を支える活動」(主に知・技を育てる)に分けて整理し、目標の柱書に書く。単元はコミュニケーション活動を中心にしながら、2つの活動を行き来して力を一体的に育てる。P279 P284 資料編(3)P31(外㉛)

18. 「言語の使用場面」「言語の働き」の名前と置き場所が変わる
現行で「内容」にある言語活動・言語の使用場面・言語の働きの例は、「指導計画の作成と内容の取扱い」に移し、「コミュニケーション活動」「コミュニケーションの場面」「コミュニケーションの意図(仮称)」と呼ぶ。「内容」は資質・能力だけに絞る。P280 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P37(外㊲)

19. 「統合的な理解」と「総合的な発揮」
知・技のゴールの姿を「統合的な理解」(英語のきまりを組み合わせて使うと理解や表現の質が高まると分かっている姿)として示す。思・判・表は「総合的な発揮」として、CEFRの分類を参考に「理解する」「表現する」「伝え合う」の3つに分けて書く。5領域をバランスよく育てる授業づくりをうながすねらい。P280 資料編(3)P8(外⑧) 資料編(3)P9(外⑨)

20. 外国語の「見方・考え方」を新しく
「外国語及び外国語によるコミュニケーションを、文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図ること」と整理し直す(現行101字→91字)。AI時代に学ぶ意義と、人間ならではの非言語コミュニケーションも意識した表現。P279 資料編(3)P7(外⑦)

21. 「学びに向かう力」を4つの要素に
①コミュニケーションへの興味・関心と伝えたい考えの形成、②対話・協働で考えを広げ深める態度、③自己イメージを持ち振り返りながら学習を調整する態度、④主体的に他者との相互理解を深めようとする心情、の4つに整理する。目標の文もこれに合わせて書き換える。P279 資料編(3)P4(外④) 資料編(3)P5(外⑤) 資料編(3)P6(外⑥)

22. 「練習」という言葉を使わない
「練習」という言葉から思い浮かべるイメージが人によって違うことや、本文でこの語を使う教科がごく一部であることから、学習指導要領本文では「練習」を使わずに必要な活動を書く。P284 資料編(3)P27(外㉗)

23. 中 高 「授業は英語で行うことを基本とする」考え方を維持
現行は「授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いる」と定めている。審議まとめでは「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」を堅持するとされた。そのうえで、国がクラスルームイングリッシュなどの表現集や動画を用意し、教師の補助的な日本語使用や、AI活用も含めた児童生徒の母語使用についての考え方を解説で示す。P284

24. 国が「基盤語彙リスト」を作る
複数のコーパスなどを参考に、国が語彙選定のための基盤語彙リストを作り、教科書会社にリストの語を使うよう推奨する。語の難しさや使用頻度などから、指導すべき語彙数も精選を含めて見直す。高校の教科書の多様性は守り、リストは研究を続けて更新する。 P283 P61 資料編(3)P29(外㉙)

25. 中 中学校の文法事項を絞り込む
中学校の文法事項のうち使用頻度の高いものなどを本文で具体的に示し、指導の対象を絞り、難しさを適正にする。教科書に難しい用法が含まれるなど内容が高度になりすぎたという指摘への対応。 P283 P277 P61

26. 中 「社会的な話題」→「身近な社会的な話題」
中学校の「社会的な話題」は、解説で難しいものが多く例示されているため、「身近な社会的な話題」とし、生徒が自分と関連付けて考えられるものを中心に例示する。話題は学年段階の目安を示し、身近なものから少しずつ抽象的なものへ進める。 P283 資料編(3)P20(外⑳) 資料編(3)P30(外㉚)

27. 自分のこと・地域・日本・自分の意見を伝える
話題や活動の例を見直し、自分のことや日本のことに加えて、自分の意見を言える活動を充実させ、住んでいる地域の話題も明確に位置付ける。AIや学校内外の交流も使い、自分が伝えたいことを伝える活動を強める。 P281 P10 資料編(3)P25(外㉕)

28. CEFRに照らしてレベルを点検
現行では、各校種で想定したCEFRレベル(小～A1程度、中A1～A2程度、高A2～B1程度)より高い内容が書かれている場合がある。今後は「内容」や活動例をCEFRに照らして適切な文言にし、教師の足場かけが前提のものは解説で趣旨を示す。 P283

29. 小 中 小中のつなぎ目を具体的に示す
各学校段階で身に付けさせること、前の校種からつなぐために重点を置くことを「指導計画の作成と内容の取扱い」で具体的に示す。例:小学校では日本語と英語の語順の違いに気付かせる、中1の初めは音声中心にし小学校の話題や表現を繰り返す、3年間を通じて発音と綴りを結び付ける。 P281 資料編(3)P18(外⑱) 資料編(3)P19(外⑲)

30. AIの適切な活用を学習指導要領に明記する方向
オンラインでの人との交流も含むデジタル学習基盤の活用を明記し、その一つとして発達の段階に応じたAIの適切な活用も書くべきとされた。目標はあくまで人間同士のコミュニケーションで、AIを使った会話練習などはそのための手段という原則をはっきりさせる。 P278 P282 P88

31. 科学的知見にもとづく学び方の指導
第二言語習得や認知心理学、学習科学の知見を踏まえ、児童生徒が家庭学習も含めて自分で学習方略を使えるようにする。国が教師の指導や学習者に役立つ動画や資料を、学校の負担にも配慮して作る。 P278 P281 資料編(3)P15(外⑮)

32. 文化理解と「多様な外国語」
多様性の包摂や多文化共生のための文化理解、母語や自国の文化を見つめ直すための言語の違いの理解を充実させる。帰国生徒や外国につながる生徒の外国語の力を生かす配慮を外国語の解説にも書く。英語以外の外国語については、開設状況の公表やオンライン講座などを検討する。 P282 資料編(3)P26(外㉖) 資料編(3)P27(外㉗) 資料編(3)P28(外㉘)

33. 評価規準の作り方が楽になる
「内容のまとまりごとの評価規準例」は国が示し、学校での作成は不要とする方向。外国語の「内容のまとまり」は5つの領域とする方向。学校が作る単元の目標はそのまま評価規準となるようにし、「内容」を基に作る。 P285 資料編(3)P38(外㊳) 資料編(3)P39(外㊴)

34. 教師を支える国の研修と資料
文部科学省が全国の教師向けに大規模なオンライン研修を行う。国が作る動画や資料は自治体の研修でそのまま使えるように作り、小学校向けは学級担任と専科教員それぞれのニーズに配慮する。ALTとの連携についての動画・資料も出す。 P285

3 現行と次期の比較（新旧対照）

17項目

~~黄色のマーカー~~＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
学年ごとの目標	各学校が「~~学年ごとの目標を適切に定め~~」ることになっている（小：2学年間、中：3学年間を通じて目標の実現を図る）。	学習指導要領が段階的な内容を示すので、学年ごとの目標の**一律の作成義務はなくし**、必要な場合に**任意で作る**方向（審議まとめの案）。P280 資料編(3)P19(外⑲) 現行現行抜粋P6・P15・P25
見方・考え方	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、~~社会や世界、他者との関わり~~に着目して捉え、目的や場面、状況等に応じて、~~情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること~~（101字）。	外国語及び外国語によるコミュニケーションを、**文化の違いや社会及び相手との関わり**に着目して捉え、**多様な他者の考えを受け止める**とともに、**表現等を工夫して**自らの考えを伝え、**相互理解を図ること**（91字）。 P279 資料編(3)P7(外⑦)
学びに向かう力、人間性等（中学校の目標）	外国語の~~背景にある文化に対する理解を深め~~、~~聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら~~、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	コミュニケーションなどに**興味・関心を持ち**、他者との**対話・協働**を通して考えを広げたり深めたりするとともに、**自らの学習を調整して**、他者との**相互理解を深めようとする**態度を養う。 P279 資料編(3)P6(外⑥)
学びに向かう力、人間性等（高校の目標）	文化に対する理解を深め、聞き手等に配慮しながら、~~主体的、自律的に~~外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。	中学校の内容に加えて「**外国語の習得に継続して取り組もうとする**態度」を養う。 資料編(3)P6(外⑥)
知識及び技能の目標の書き方	外国語の~~音声や語彙、表現、文法、言語の働きなど~~を理解し、聞く・読む・話す・書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる技能（中）。	「**外国語の特徴やきまり**」を理解し、実際のコミュニケーションで活用できる技能。各言語材料や領域の列挙は目標から省いて短くする。 資料編(3)P2(外②)
目標で扱う話題	中・高の目標に「~~日常的な話題や社会的な話題~~について」と書く。小学校外国語活動は「~~身近で簡単な事柄~~」。	目標では中学校「**様々な話題**」、高校「**幅広い話題**」とし、具体的な話題は「内容」で示す。小学校外国語活動は「**ごく身近な事柄**」、外国語は「身近な事柄」。 資料編(3)P3(外③)
中学校の話題	「~~社会的な話題~~」（解説では、エネルギー問題、環境問題、世界情勢、科学技術、平和問題、人権問題など難しいものが多く例示）。学年別の区分がなく、難易度が混在。	「**身近な社会的な話題**」（例：健康的な食生活、スクリーンタイム、皆が過ごしやすい学校づくり）。**中1相当**→中3相当と、身近なものから少しずつ抽象的なものへ。 P283 資料編(3)P20(外⑳) 資料編(3)P30(外㉚) 現行現行抜粋P19
活動の名前	~~言語活動~~	**コミュニケーション活動**（主に思・判・表を育てる）と**コミュニケーション活動を支える活動**（主に知・技を育てる） P277 P279 P284 資料編(3)P31(外㉛)
言語の使用場面	「内容」の中に「~~言語の使用場面の例~~」として示す。	「**指導計画の作成と内容の取扱い**」に移し、「**コミュニケーションの場面**」として例示する。 P280 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P37(外㊲)
言語の働き	「内容」の中に「~~言語の働きの例~~」として示す。	「**コミュニケーションの意図（仮称）**」として例示する（例：相手との関係を円滑にする・気持ちを伝える／事実・情報を共有する・相手の行動を促す／考えや意図を共有する）。知・技の指導での扱い方も示す。 P280 資料編(3)P37(外㊲)
「内容」に入るもの	知・技（言語材料）、思・判・表、~~言語活動及び言語の働きに関する事項~~（言語活動・使用場面・働きの例）。	「内容」は**資質・能力に限る**。思・判・表は「**総合的な発揮**」と領域ごとの「話題・条件・できること」、知・技は「**統合的な理解**」と英語の特徴やきまりに関する事項。活動の例は「指導計画の作成と内容の取扱い」へ。 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P44(外㊹)

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
思考力、判断力、表現力等の示し方	~~5つの領域別の目標~~と、それを大まかにまとめた「内容」の思・判・表。重なりがあり、深まりが見えにくい。	「総合的な発揮」をCEFRの分類（Reception・Production・Interaction）を参考に**【理解する】【表現する】【伝え合う】**に分け、領域ごとの内容は学年段階の目安つきで示す。 P280 資料編(3)P8(外⑧)
語彙	~~語数の目安だけ~~（小600～700語、中1,600～1,800語程度の新語、高1,800～2,500語程度、合計4,000～5,000語）。リストはない。	国が**基盤語彙リスト**を作り、教科書でリストの語を使うよう推奨。指導すべき語彙数も**精選**を含めて見直す（合計は「●語程度」とされ未定）。 P283 資料編(3)P29(外㉙) 現行現行抜粋P11・P21・P3
中学校の文法	前回改訂で、感嘆文のうち基本的なもの、現在完了進行形、仮定法のうち基本的なものなどを追加。教科書に難しい用法も含まれる。	**使用頻度の高いもの**などを本文で具体的に明示し、指導の対象を絞り、難易度を適正化する。 P277 P283 現行中学校解説外国語編P13
AIの扱い	学習指導要領にAI活用の位置付けがない。	デジタル学習基盤の活用を明記し、その一つとして発達の段階に応じた**AIの適切な活用**を書く。**人間同士のコミュニケーション**を充実させるという原則を明確に。 P277 P278 P282
評価規準の作り方	各学校が①内容のまとまりごとの評価規準、②単元の目標、③単元の評価規準を作る。外国語は領域別目標が3つの柱で整理されておらず、作業が煩雑。	内容のまとまりごとの評価規準例は**国が示し**、学校の**作成は不要**。外国語の「内容のまとまり」は**5つの領域**とする方向。単元の目標が**そのまま評価規準**になるようにし、「内容」を基に作る。 P285 資料編(3)P38(外㊳) 資料編(3)P39(外㊴)
教材に関する留意事項（文化）	多様な考え方への理解、我が国の文化や英語の背景にある文化、国際理解の観点。	これらに「**多様性の包摂**」「**多文化共生**に対する理解」を加え、話題・活動にも明示する。 P282 資料編(3)P25(外㉕) 資料編(3)P26(外㉖) 資料編(3)P27(外㉗)

4 目標の新旧（現状→改善イメージ）

資料編の外①（柱書）、外②（知識及び技能）、外③（思考力、判断力、表現力等）、外⑥（学びに向かう力、人間性等）の「現状」と「改善イメージ」の対照表を要約した。いずれも外国語の目標で、「告示や解説を示すにあたり引き続き検討」と注記されている。英語の目標・高校の科目目標のイメージは外㊶～㊽にある。

校種・観点	現行	次期（改善イメージ）
中学校 柱書	言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成。	コミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びそれを支える活動などを通して育成（中・高共通の文）。 資料編(3)P1(外①)
中学校 知識及び技能	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、4技能による実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付ける。	外国語の特徴やきまりを理解し、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付ける。 資料編(3)P2(外②)
中学校 思考力、判断力、表現力等	日常的な話題や社会的な話題について、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする力。	様々な話題について、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする力。 資料編(3)P3(外③)
中学校 学びに向かう力、人間性等	文化への理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	興味・関心を持ち、対話・協働で考えを広げ深め、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度。 資料編(3)P6(外⑥)

5 語彙（単語の数）はどうなる？

現行の語数の目安

- **中**：小学校で学習した語に1,600～1,800語程度の新語を加えた語（前回の1,200語程度から増加。1,600は新たに指導する語数の下限、1,800は目安で上限ではない）
- **小中高合計**：4,000～5,000語（リストなし）

次期：国が「基盤語彙リスト」を作る方向

国が複数のコーパスを参照するなどして「基盤語彙リスト」を作り、教科書会社にリストの語を教科書で使うよう推奨する。語の難しさ（CEFRレベル等）や使用頻度にもとづく重要度（カタカナ語との対応なども含む）を考えて優先順位を付け、小・中・高への振り分けを検討する。その際、他のアジア諸国の状況も参考にする。指導すべき語彙数は、精選も含めて見直す（改善イメージでは合計「●語程度」とされ、数はまだ決まっていない）。ねらいは、教科書の語彙の難しさと選び方をならし、負担を適正にして、使用頻度の高い重要な語彙を様々な場面で繰り返し扱って身に付けさせること。高校は生徒の実態がさまざまなので教科書の多様性を守り、小中も難しくなりすぎないようにしながら多様な話題を扱えるよう配慮する。リストは必要に応じて更新できるよう継続的に調査研究する。入試や調査の作問に役立つよう、各教科書の新出語彙リストは電子データで提供されるべきとされた。

6 CEFRレベルの目安

中：A1～A2程度（同上）。R6調査でA1レベル相当以上の生徒は52.4%（H25は32.2%） P283 P276

7 評価はどう変わる？

1. 評価規準例は国が示し、学校での作成は不要にする方向

現行は各学校が①内容のまとまりごとの評価規準、②単元の目標、③単元の評価規準を作っている。審議まとめでは「内容のまとまりごとの評価規準例」を国が示し、学校の作成は不要にする方向が示された。 P285

2. 外国語の「内容のまとまり」は5つの領域

外国語の特質から引き続き5つの領域（聞く・読む・話す[やり取り]・話す[発表]・書く）で評価することが重要とされ、国の評価規準例の「内容のまとまり」は「内容」に示す5つの領域とする方向で検討する。 P285 資料編(3)P39(外㊴)

3. 単元の目標＝評価規準

学校が作る単元の目標はそのまま評価規準となるようにする。作るときは外国語の目標・英語の目標（高校は科目目標）を踏まえつつ「内容」を基にする。 P285 資料編(3)P38(外㊳)

4. 評価が煩雑だった理由が解消される

現行は領域別の目標が3つの柱で整理されておらず、「内容」も領域別でないため評価の手順が煩雑だったが、今回の構造化で改善されると考えられている。多くの教科と同じように「内容」から評価規準を作れるようになる。 P280 P285

5. 「統合的な理解」「総合的な発揮」は当面直接評価しない

当面は「統合的な理解」「総合的な発揮」の育成状況そのものを一律に直接評価することは求めず、単元構想を含む指導・評価の計画の質を支える役割とする。 資料編(3)P40(外㊵)

6. 知・技と思・判・表を同じテストで評価できる

知・技と思・判・表を同じパフォーマンステストなどで評価することも引き続き可能（具体は評価参考資料の作成時に検討）。単元例でも同一のパフォーマンステストで評価する例が示されている。 資料編(3)P13(外⑬) 資料編(3)P40(外㊵)

7. 総括は頻度を抑え、形成的評価を充実
学習成果の観点別評価・評定への総括は、学年末に絞るなど頻度を抑え、学習途中で差分を見取ってフィードバックする形成的評価を充実する（全教科共通の再整理案）。
資料編(3)P38(外㊳)

8. 学びに向かう力は「見取る姿」で長い期間に
学びに向かう力の「見取る姿」は単元ごとではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取る。「見取る姿」や運用方法は小中について令和10年度末までに周知するとされている。資料編(3)P13(外⑬) P65

9. MEXCBTとAIパフォーマンステスト
各学校の定期テストやパフォーマンステストに使えるよう、MEXCBTにCEFRを参照した問題を充実させ、AIを使ったパフォーマンステストツールの可能性を検討する。P285

10. 全国学力・学習状況調査の作問
今後の全国学力・学習状況調査は、CEFRレベルを勘案しつつ、個別の資質・能力に基づいて作問する。P283

11. デジタル学習指導要領で評価規準例を一括確認
資料編の単元づくりのイメージでは、デジタル学習指導要領で解説の記述や評価規準例、小学校を含む前後の学習内容も確認できる姿が描かれている。資料編(3)P12(外⑫)

8 国が用意するもの（支援）

1. 学習方略の動画・資料
第二言語習得・認知心理学・学習科学の知見を踏まえ、教師の指導や学習者の参考になる動画・資料を国が提供する。学校の負担軽減に留意し、教師の指導や自治体の研修でも使えるように作る。P281

2. AI活用の留意点・動画・資料
適切でない使い方も含めた留意点、動画・資料を国が具体的に示し、技術の発展に応じて更新する。外国語でのAI活用の考え方や実践事例も示す。P282 P88

3. クラスルームイングリッシュ等の表現集・動画
生徒の理解に応じた英語で指導する際に使える表現集（クラスルームイングリッシュ等）や動画を提供する。P284

4. 全国の教師向け大規模オンライン研修
改訂で重視する点を伝え、英語力・指導力の向上と継続的な授業改善を図るため、文部科学省が大規模なオンライン研修を行う。P285

5. 研修にそのまま使える動画・資料
国が作る動画・資料は自治体の教員研修でそのまま使えるようにし、教職課程でも使われることを念頭に作る。小学校向けは学級担任と専科教員それぞれのニーズに配慮する。P285

6. ALT等との連携の動画・資料
ALT等との効果的な連携のあり方について参考となる動画や資料を提供する。P285

7. 英語資格・検定試験の特別受験制度の周知
検定団体が教師や教職課程の学生向けに受験料を減額するなどの特別受験制度について、学生の活用が進むよう一層周知する。P285

8. 教員養成のコアカリキュラム改善
教員免許制度の見直しを踏まえた外国語（英語）コアカリキュラムの改善で、科学的知見や学習方略の指導方法を学べるようにする。P285

9. MEXCBTの問題充実
定期テストやパフォーマンステストに使えるよう、MEXCBTにCEFRを参照した問題を充実させる。P285

10. 国の評価規準例
「内容のまとまりごとの評価規準例」を国が評価の参考資料で示す。P285

11. 基盤語彙リストと新出語彙リストの電子データ
国が基盤語彙リストを作る。各教科書の新出語彙リストは入試や調査の作問に役立つよう電子データで提供されるべきとされた。P283 資料編(3)P29(外㉙)

12. Let's Try!の見直し
国が作成・配布している外国語活動教材Let's Try!を、身近で楽しい内容、5・6年につながる段階的な活動に見直す。資料編(3)P17(外⑰)

13. 教育課程特例校の実践事例の提供
教育課程特例校1,915校（令和7年4月時点）のうち1,483校が外国語に関する内容。制度が調整授業時数制度に統合されることを踏まえ、参照できる実践事例を教育委員会等に積極的に提供する。
P284 P36

14. 多様な外国語の学びの支援
各校の開設状況の公表と共有、教師の指導力向上・学習者同士の交流・オンライン講座の開設などの可能性の検討、大学が公表している教材などの資料の収集・公表を行う。P282

15. 外国語を使う機会の充実
英語キャンプ、英語での探究、海外校との交流、海外留学、ALT等の配置拡充など、先行事例の成果を共有し各地方の取組を推進する。P285 資料編(3)P15(外⑮)

16. デジタル学習指導要領
資料編のイメージでは、デジタル学習指導要領で解説や評価規準例、他教科や小学校を含む前後の学習内容を確認できる。資料編(3)P12(外⑫)

9 生成AI・ICTとの付き合い方

13項目

1. AI活用を学習指導要領に明記
オンラインでの人との交流などを含むデジタル学習基盤の活用を外国語の学習指導要領等に明記し、その一つとして発達の段階に応じたAIの適切な活用も書く。指導の参考となる考え方や実践事例も具体的に示す。P278 P282 P88

2. 原則：目標は人間同士のコミュニケーション
最終目標は外国語による人間同士のコミュニケーションを図る資質・能力で、AIを使った会話練習などはそのための手段。児童生徒の学びを深め、人間同士のコミュニケーションの充実につなげるという原則をはっきりさせる。P282

3. AIの出力を鵜呑みにさせない
自分の興味・関心に応じた例文をAIで作るなどは有効と考えられる。ただし、児童生徒がAIの生成物を鵜呑みにせず、出力を吟味しながら自分の学習に生かせるよう教師が支援することが重要。P282

4. 家庭学習の出し方に注意
単純な英作文など、単にAI翻訳を提出すれば済むような家庭学習の課題を出さないなどの注意が必要とされた。P282

5. 国が留意点・動画・資料を示し更新する
諸外国の例も参考に、授業内外でのAIの効果的な使い方について、適切でない使い方を含む留意点や動画・資料を国が具体的に示し、技術の発展に合わせて更新する。P282

6. 話す量を増やす道具として
AIの活用で、恥ずかしがらずに話すことなどの練習量を大幅に増やす。家庭学習と連携して発話時間を確保する。資料編(3)P15(外⑮)

7. 言いたいことを英語にする活動
AIで自分が言いたいこと(母語)を英語にする活動を強化することが、英語で伝えたい内容を整理・発信する活動の充実策の一つとして挙げられている。資料編(3)P15(外⑮)

8. 交流の機会をつくる
児童生徒が英語で伝えたいことのイメージを持てるよう、AIや学校内外での交流機会を使いながら、自分が伝えたいことを伝える活動を強める。P281

9. 母語使用の考え方にAIも含めて示す
教師の補助的な日本語使用や、発達の段階に応じたAIの活用も含めた児童生徒の母語使用について、参考となる考え方を解説で示す。P284

10. 発信科目のフィードバックにAI
英コミュ(発信)(仮称)では、個別のフィードバックが物理的に難しいという課題に対し、AIを含むデジタル学習基盤の活用も含めたフィードバックの工夫を解説等で示す。
資料編(3)P23(外㉓)

11. AIを使ったパフォーマンステストの検討
AIを活用したパフォーマンステストツールの可能性を検討すべきとされた。P285

12. AI時代でも相応の英語力は必要
AIで手軽に翻訳・通訳できる中でも、出力の正確さ・適切さを批判的に検討したり、ツールも使いながらリアルなコミュニケーションをしたりするには相応の英語力が必要という視点、AIを効果的に使う力が必要という視点が示されている。資料編(3)P14(外⑭)

13. AI時代の教師の役割
授業デザイン、児童生徒の学ぶ意欲の向上、自律的な学習者を育てる学び方の指導などがより重要になる。人間同士のリアルなコミュニケーションが大切になることも踏まえる。P285

10 今からできる準備チェックリスト

18項目

- [ ] 今すぐ 自分の単元を、「コミュニケーション活動」(目的・場面・状況に応じて理解・表現・伝え合う)と「それを支える活動」(語彙や文法を理解し使う)に分けて見直し、両者を行き来する流れになっているか確かめる。P284 資料編(3)P31(外㉛) 資料編(3)P34(外㉞)

- [ ] 今すぐ 単元の初めに「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」を具体的に設定して生徒と共有する（例：日本に来たことがない海外の生徒に、住んでいる町の食べ物を紹介する）。資料編(3)P12(外⑫) 資料編(3)P13(外⑬) 資料編(3)P31(外㉛)
- [ ] 今すぐ 同じ表現でも場面によって意図が変わることを意識させる（例：Can you ～? が質問にも依頼にも誘いにもなる）。似た意味の既習表現を整理して使えるようにする。資料編(3)P37(外㊲)
- [ ] 今すぐ 導入したばかりの語彙や文法をすぐ話せる・書けることを求めず、聞く・読むで理解する段階から話す・書く段階へ進める計画にする。資料編(3)P34(外㉞) 資料編(3)P35(外㉟) 資料編(3)P36(外㊱)
- [ ] 今すぐ 自分のこと・地域のこと・日本のこと・自分の意見を伝える活動を単元に入れる（例：地域のおすすめの場所を留学生に紹介、校則について意見を発表）。P281 資料編(3)P25(外㉕)
- [ ] 今すぐ 家庭学習の課題を見直し、単純な英作文などAI翻訳を出せば済むような課題になっていないか確かめる。P282
- [ ] 今すぐ 授業でAIを使う場合は、例文の生成などに使っても出力を鵜呑みにさせず吟味させ、最後は人間同士のやり取りにつなげる設計にする。使う前に、学校・教育委員会が認めた環境かどうか、利用規約・年齢制限・必要な保護者の同意を確かめ、氏名や写真などの個人情報は入力させない。P282
- [ ] 今すぐ 英語の学び方（学習方略）を授業で指導し、生徒が家庭学習でも自分で学習を調整できるようにする。高3の6割が学習方法が分からないという調査結果がある。P281 資料編(3)P15(外⑮)
- [ ] 今すぐ 小学校で扱っている話題・表現・指導方法を確かめる（小学校の指導内容を把握していない中学校教師が多いという調査結果がある）。P277 資料編(3)P18(外⑱)
- [ ] 今すぐ 中1の初めは音声中心の活動を重視し、小学校で扱った話題や表現を繰り返す。語順を意識して書くこと、発音と綴りの結び付けを3年間丁寧に指導する。P281 資料編(3)P19(外⑲) 資料編(3)P21(外㉑)
- [ ] 今すぐ 教科書の「社会的な話題」を扱うときは、健康的な食生活やスクリーンタイムなど、生徒が自分と関連付けられる身近な切り口を工夫する。P283 資料編(3)P30(外㉚)
- [ ] 今すぐ 授業は生徒の理解に応じた英語で行うことを続ける。補助的な日本語使用や母語使用の考え方は今後の解説で示されるので、それを確認する。P284
- [ ] 全面実施まで 評価は5つの領域を「内容のまとまり」とし、単元の目標をそのまま評価規準にする形に移る方向なので、国の評価規準例が出たら単元計画の作り方を合わせる。P285 資料編(3)P38(外㊳) 資料編(3)P39(外㊴)
- [ ] 今すぐ パフォーマンステストで知・技と思・判・表を同じ課題で見取る形を試す（引き続き可能とされている）。資料編(3)P13(外⑬) 資料編(3)P40(外㊵)
- [ ] 今すぐ ALTやオンラインでの海外校との交流など、人間同士のリアルなコミュニケーションの機会を単元に組み込む。P285 資料編(3)P13(外⑬) 資料編(3)P15(外⑮)
- [ ] 今すぐ 帰国生徒や外国につながる児童生徒の外国語の力を、授業で生かせるよう配慮する。P282
- [ ] 全面実施まで 国が行う大規模オンライン研修や、動画・資料、表現集が出たら活用する。P284 P285
- [ ] 全面実施まで 学年ごとの目標は一律の作成義務をなくす方向なので、告示の内容を確かめたうえで、校種間の接続など必要がある場合に任意で作るかどうかを校内で決める。P280 資料編(3)P19(外⑲)

11 次期を先取りする授業アイデア

13本

中1(4〜5月)　10分(帯活動)

小学校で言えた単語、書けるかな？音と綴りの橋渡し

小学校で慣れ親しんだ語を使い、音と綴りのつながりを毎時間少しずつ確かめます。

手順・ワークシート

ねらい

小学校で慣れ親しんだ語について音と綴りの対応に気付き、聞いた語を、綴りの手がかりを使って書くことができる。

流れ

- 2分　先生が語を3つ続けて言い、生徒は繰り返します。続けて「3つに共通する音は？」と問いかけます。
- 3分　カードを見せて綴りを確かめ、「a__e」の形が同じ音になっていることに生徒自身が気付くよう促します。気付いたことをペアで話し、全体で共有します。
- 3分　先生が同じまとまりの語(make, same, late など)を言い、生徒はミニホワイトボードに書いて見せます。意味を知らない語があってもよいことにし、音から綴りを考える体験を優先します。
- 2分　書いた語を一つ使って、小学校でも言えた形の文(I like ～. / I can ～. など)を言い、ノートに書きます。今日のまとまりを、ノートの「音と綴りのページ」に記録します。

評価

【知識・技能】聞いた語を音と綴りの対応を手がかりに書けているかを、ミニホワイトボードで全体的に確かめます。つまずきの多いまとまりは次の時間以降に繰り返します(この帯活動自体は、記録に残す評価には用いません)。

中1　15分

語順ボックスで、小学校の「言えた」を「書けた」に

「だれが・する」を土台に、「何を・どこで・いつ」を必要に応じて箱に足していくと、文がぐっと書きやすくなります。

手順・ワークシート

ねらい

自分のことを伝える文を、語順を意識して「だれが・する」を土台に、必要に応じて「何を・どこで・いつ」を加えて組み立てて書くことができる。

流れ

- 3分　先生が週末の過ごし方を話し、生徒は聞き取ったことを日本語で言います。
- 3分　先生の文を語順ボックスに入れて示し、日本語の「日曜日に・公園で・テニスを・します」と順番を比べます。「英語は『する』が早く出てくる」「場所と時は後ろ」など、生徒の言葉で確かめます。I swim. / I go to the park. のように、「何を」の箱を使わない文もあることを示し、空いている箱があってもよいことを伝えます。
- 5分　生徒は自分の休日の過ごし方について、まず口で言ってみてから、語順ボックスに語を入れて書きます。分からない語は先生に聞くか、辞書で調べます。
- 4分　ペアで書いた文を読み合い、相手に一つ質問します(Do you play it every Sunday? / Who do you play with? など)。答えを聞いて、自分の文を一つ付け足します。

評価

【知識・技能】選んだ動詞に合う語順で文を組み立てて書いているか(「だれが＋する」のあとに、必要な「何を・どこで・いつ」を英語の語順で加えているか)を、ワークシートで見取ります。すべての箱が埋まっているかどうかは問いません。誤りが多い場合は、全体で同じ枠を使ってもう一度確かめます。

中2　1単位時間（50分）※単元9時間程度のうちの1時間

相手に合わせて選ぶ！町のおすすめグルメ紹介

相手の好みを聞き出してからすすめる。目的・場面・状況がはっきりした紹介活動です。

手順・ワークシート

ねらい

相手の好みや食べられない物を聞き出し、それに合わせて地域の食べ物を選んで、理由とともにすすめることができる。

流れ

- **5分** 先生がALTと、相手の好みを聞いてからおすすめするやり取りを見せます。生徒は「どんな順番で話していたか」を聞き取ります。
- **7分** やり取りの流れ（挨拶→質問→すすめる→理由→相手の反応を聞く）を全体で整理し、各段階で使える既習表現を出し合います。生徒の発言を中心に板書します。
- **10分** コミュニケーション活動を支える活動として、because / if / I think (that) を使って理由を付ける言い方を、ペアで言い合います（例：If you like sweet things, you should try ～.）。
- **15分** プロフィールカードを持った相手役に対して、好みを聞き出してからおすすめする活動を、相手を替えて3回行います。相手役はカードに合わせて答え、最後に Thank you. I want to try it! / Hmm, I'm not sure. などで反応します。
- **8分** 「相手にうまく合わせられた例」を2組に見せてもらい、どこがよかったかを全体で話し合います。
- **5分** 次回のALTや海外の生徒との交流に向けて、改善したい点を振り返りに書きます。

評価

【思考・判断・表現】相手から聞き出した情報に合わせて食べ物を選び、理由とともにすすめているかを、3回目のやり取りや単元末のパフォーマンステストで見取ります。【知識・技能】接続詞などを使って理由を伝える技能を、同じパフォーマンステストの中で見取ることもできます。

中3　2単位時間（50分×2）

スクリーンタイム、わたしたちのルールは？

自分ごとの「身近な社会的な話題」で、読んで・話して・意見を書きます。

手順・ワークシート

ねらい

スクリーンタイムについての短い文章や友達の考えを踏まえ、自分の意見を理由とともにまとまりのある文章で書くことができる。

流れ

- **10分** 【1時間目】使用時間の記録をもとに、ペアでやり取りします。先生は数人の答えを聞き、クラスの傾向を簡単に共有します。
- **15分** 2つの短い英文を読み、それぞれの書き手の意見と理由を表に整理します。分からない語は前後から推測させ、必要な語だけを確かめます。
- **15分** 4人班で、どちらの考えに近いかを、自分の生活の例を挙げて話し合います。I agree with ～ because ～. / I see your point, but ～. などの表現を使います。
- **10分** 自分の意見と理由を構成メモに整理します（意見→理由1と例→理由2と例→まとめ）。
- **35分** 【2時間目】構成メモをもとに意見文を書きます（目安60～80語）。書き終えたらペアで読み合い、「理由が具体的か」「相手が納得しそうか」の観点でコメントし合います。
- **15分** コメントをもとに書き直し、最後に「意見を書くときに役立った表現や工夫」を振り返ります。

評価

【思考・判断・表現】読んだ情報や友達の考えを踏まえ、自分の意見を理由や例とともにまとまりのある文章で書いているかを、意見文で見取ります。【知識・技能】意見や理由を表す表現、接続詞を正しく使っているかを、同じ意見文で見取ることができます。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜外国語（英語）（中学校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

中2・3　1単位時間（50分）

AIの例文をうのみにしない！「好き」で例文づくり

興味に合わせてAIに例文を作らせ、吟味して自分の文にし、友達との会話で使います。

手順・ワークシート

ねらい

生成AIが作った例文を、意味・正確さ・自分に当てはまるかの観点で吟味して自分の文に作り直し、友達とのやり取りで使うことができる。

流れ

5分 本時で扱う文法（例：現在完了の経験用法）を、先生の体験を例に聞かせて確かめます。

7分 先生が生成AIに「スキーが好きな中学生向けに、have been to を使った例文を3つ作って」と指示して出てきた例を大型画面で見せ、全体で吟味します。難しすぎる語や、自分には当てはまらない内容があることに気付かせます。

12分 生徒は個人で、自分の興味（部活動、趣味、好きな音楽など）を条件に入れて例文を作らせます。入力に名前や学校名などの個人情報を入れないことを確認します。出てきた例文をチェックリストで吟味し、使いたい文を2つ選んで、自分の本当の経験に合うように書き直します。

15分 書き直した文を使い、ペアで Have you ever ～？ のやり取りを、相手を替えて行います。メモを見ないで言うことに挑戦し、相手の答えに一言反応してから質問を続けます。

8分 「AIの例文をそのまま使わなかった理由」を何人かに発表してもらい、AIを学習に使うときのコツを全体でまとめます。

3分 自分が直した例文と、直した理由を振り返りに書きます。

評価

【知識・技能】書き直した例文で、現在完了の形と意味を正しく使っているかを見取ります。【思考・判断・表現】やり取りの中で、相手の答えを受けて反応したり質問を続けたりしているかを観察で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】AIの出力を吟味し、自分の学習に合うように調整しようとする姿を、ワークシートの記述で見取ります。

中1・2　20分

Can you～？は質問？お願い？おさそい？

同じ表現でも場面で意図が変わる。ロールプレイで「ことばの働き」を体感します。

手順・ワークシート

ねらい

Can you ～？ が質問・依頼・誘いのどれとして使われているかを場面から判断し、場面に合わせて使ったり応じたりすることができる。

流れ

4分 先生がALTまたは生徒と、3つの短いやり取りを見せます。生徒はそれぞれが「質問」「お願い」「おさそい」のどれかを考えます。

4分 どこで判断したかを話し合います（please があるか、場面、相手との関係、声の調子など）。答え方の違い（Yes, I can. / Sure. / I'd love to! / Sorry, I can't. I have club practice.）も整理します。

8分 場面カードを引き、ペアでロールプレイをします。言われた側は場面に合った答え方で応じ、断るときは理由を添えます。相手と場面を替えて繰り返します。

4分 「お願い」をするとき、ほかにどんな言い方を知っているか（Could you ～？ / Will you ～？ など、既習の範囲で）を出し合い、相手によって使い分ける感覚に触れます。

評価

【知識・技能】場面に応じて Can you ～？ を使い分け、適切に応じているかを、ロールプレイの観察で見取ります。単元末のやり取りのパフォーマンステストに依頼や誘いの場面を入れ、記録に残す評価につなげます。

中2　15分（＋家庭学習と1週間後の振り返り）

覚え方を変えれば忘れにくい！単語の学び方実験

「思い出す」「間をあける」「使う」を試し、自分に合う学び方を選ばせます。

手順・ワークシート

ねらい

語彙を覚えるいくつかの方法を試して比べ、自分に合う方法を選んで家庭学習の計画を立て、振り返ることができる。

流れ

3分 先生が自分の単語学習の失敗談を英語で話し、生徒に理由を考えさせます。

4分 重要語10語を、難しさや知っている度合いが同じくらいになるよう5語ずつ2組に分けておきます。方法A「見て書く」と方法B「カードを見ずに思い出してから確かめる」を、組を替えてそれぞれ2分間試します（列ごとにAとBに使う組を入れ替えると、語の難しさの差が結果に出にくくなります）。翌日の授業の始めに10語の小テストをして、どちらが思い出しやすかったかを各自で確かめることを予告します。

4分 方法Bで覚えた5語のうち2語を選び、ペアで自分のことを1文ずつ言い合います（方法C「文の中で使う」）。翌日の小テストで、文で使った2語と使わなかった3語の思い出しやすさを比べます。結果は「今回の自分の結果」として受け止め、1週間後にもう一度確かめます。

4分 学習記録表に、家庭学習で試す方法と、復習する日（例：今日・2日後・1週間後）を書き込みます。1週間後の授業で、結果と気付きを振り返る時間をとります。

評価

【主体的に学習に取り組む態度】学習方法を試して比べ、自分に合う方法を選んで計画を立てたり、結果を振り返って修正したりしようとする姿を、学習記録表の記述で学期を通して見取ります。小テストの点数そのものを態度の評価には使いません。

中2・3　1単位時間（50分）

「いただきます」を英語で説明できる？

ぴったりの訳がない日本の言葉を説明しながら、日本語と日本の文化を見つめ直します。

手順・ワークシート

ねらい

一語では訳しにくい日本の言葉について、使う場面や気持ちを説明し、相手の質問に答えながら伝えることができる。

流れ

5分 ALTが「日本に来て不思議に思った言葉」を話します。生徒は聞いて、どの言葉のことかを当てます。

8分 班で言葉カードを1枚選び、「いつ使う？」「どんな気持ち？」「ほかの国にも似た習慣はありそう？」を日本語で話し合います。ぴったりの英語がないことに気付かせ、「訳す」のではなく「説明する」ことを確かめます。

12分 説明の型を参考に、班で英語の説明を作ります。先生は、難しい日本語を既習の英語に言い換えるよう助言します（例：「感謝」→ say thank you for the food and to the people who made it）。

15分 班ごとにALTや他の班に説明し、聞き手は Do you say it at home, too? / Do you say it to your teacher? などと質問します。質問に答えながら説明を補います。

7分 ALTから、出身地で似た場面に言う言葉や習慣を聞きます。日本語と英語それぞれの言葉の背景にある考え方の違いや共通点を話し合います。

3分 「説明してみて初めて気付いた日本語のこと」を振り返りに書きます。

評価

【思考・判断・表現】相手に伝わるよう、使う場面や気持ちを既習の表現で説明し、質問に応じて補っているかを見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】言い換えを工夫して、粘り強く伝えようとしている姿を見取ります。

中2　1単位時間（50分）　生成AIの使い方つき

AIで練習、本番は友達と！週末トーク・リトライ

友達と話す→AIの会話アプリで言えなかったことを試す→相手を替えてもう一度話す。AIを人と話すための準備に使います。

手順・ワークシート

ねらい

週末の出来事について、過去形を使って話したり、相手に質問したり反応したりしながら、1分半以上やり取りを続けることができる。

流れ

5分 【AIを使わない】先生が週末の出来事を話し、生徒に質問します。

7分 【AIを使わない】ペアで1回目のトーク（1分）。終わったら、言いたかったのに言えなかったことを、日本語のままメモします。

12分 【AIを使う】指示文カードを入力して、AIと同じ話題でやり取りします。目的は「言えなかったことを言ってみる」「AIに質問を1回返す」の2つです。本名・学校名・住所・家族の名前や、よく行く場所など個人が分かる情報は言わない・書かないことを確認します（必要なら架空の内容に変えてかまいません）。AIの返答で分からない表現や不自然だと思った表現はメモします。

8分 【AIを使わない】全体で、AIとの練習で言えるようになった表現と、AIの返答で「長すぎる」「本当に正しい？」と思った表現を共有します。先生が正確さを確かめて板書します（例：I stayed home and played video games. / It was fun, but I was tired.）。

13分 【AIを使わない】相手を替えて2回目（1分半）、さらに替えて3回目（1分半）のトークをします。メモは見ずに、相手の話に一言反応してから質問を続けます。

5分 1回目と3回目を比べて言えるようになったことと、AIとの練習がどう役立ったか（または役立たなかったか）を振り返りに書きます。

評価

【知識・技能】過去形を使って出来事を正しく伝えているかを、3回目のトークの観察で見取ります。【思考・判断・表現】相手の話に反応したり質問したりして、やり取りを続けているかを見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】言えなかったことを練習で解決し、次のやり取りで使おうとしている姿を、振り返りで見取ります。

中2　1単位時間（50分）　生成AIの使い方つき

同じ話を3つのレベルで！自分に合う英文を選んで読もう

先生が書いた話を生成AIで3段階に書き換え、自分で選んで読み、違うレベルを読んだ友達と内容を伝え合います。

手順・ワークシート

ねらい

自分に合うレベルの英文を選んで読み、概要や要点を捉えて友達に伝えたり、内容について自分の考えを書いたりすることができる。

流れ

5分 【AIを使わない】箱に入った本の写真を見せ、何のための箱かを予想させます。

5分 【AIで作った教材の説明】「3つの英文は、先生が書いた1つの話を、生成AIで3つの難しさに書き換え、先生が確かめて直したものです」と伝えます。レベル選びの目安を示し、生徒は自分でレベルを選びます。

12分 【AIを使わない】個人で読み、3つの質問（Who made the box? / What happens at the box now? / What can people put in the box?）に答えます。早く終わった生徒は1つ上のレベルにも挑戦します。

12分 【AIを使わない】違うレベルを読んだ3人でグループになり、読んだ内容を英語で伝え合います。自分の版にしかない情報がないか探します。

10分 全体で「やさしい版で消えた情報は何か」を確かめます。Level A には Mr. Sato の最後の言葉がないことに気付かせ、「やさしく書き換えると、大事な情報や気持ちが落ちることがある」「AIが書き換えた文章も確かめて読む必要がある」ことを話し合います。そのうえで、Mr. Sato の言葉の意味をみんなで考えます。

6分 【AIを使わない】「自分の町にもブックボックスがあったら使いたいか」について、理由を付けて2〜3文で書きます。

評価

【思考・判断・表現】選んだ英文の概要や要点を捉え、違うレベルを読んだ友達に伝えているかを見取ります。また、内容について自分の考えを理由とともに書いているかを見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】自分に合うレベルを選び、必要に応じて上のレベルに挑戦しようとする姿を見取ります。

中1　1単位時間（50分）　生成AIの使い方つき

AIに伝わる？友達に伝わる？発音チャレンジ

端末の音声入力で発音を文字にして確かめ、友達にも伝わるかを試し、音と綴りのつながりに気付きます。

手順・ワークシート

ねらい

音の違いに気を付けて単語や文を発音し、綴りと音のつながりに気付きながら、相手に伝わるように話すことができる。

流れ

5分 【AIを使わない】小学校で親しんだ動物や身の回りの物の単語を、絵カードで発音して確かめます。

8分 【AIを使わない】先生が ship / sheep などを言い、生徒はどちらの絵かを指さします。違いの出る口の形や舌の位置、母音の質（必要に応じて長さも）を確かめます。

12分 【AIを使う】ペアで端末の音声入力を使い、文カードを1枚ずつ読み上げます。文字になった英文が、言おうとした文と同じかを確かめ、違った場合は口の形を変えて3回まで挑戦します。うまくいかなかった語に印を付けます。

10分 【AIを使わない】伝わったかゲーム。一人が絵シートの中から一つを選んで I can see a __. と言い、相手がどの絵かを指さします。AIでうまくいかなかった語も、友達には伝わったかを確かめます。

10分 全体で、AIでうまく文字にならなかった語と、友達に伝わった・伝わらなかった語を比べます。ship / sheep の母音（i と ee）、cap / cup の母音（a と u）、pen / pin の母音（e と i）、lock / rock の l と r など、綴りと音のつながりを整理し、「音声認識は練習の目安になるが、完ぺきな判定役ではない」「人は前後の文や表情からも理解してくれる」ことを確かめます。

5分 次に練習したい音と、家でどう練習するかを振り返りに書きます。

評価

【知識・技能】音の違いに気を付けて、単語や文を発音しているかを、伝わったかゲームの観察で見取ります。また、綴りと音のつながりに気付いているかを振り返りで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】うまくいかなかった音を、口の形を変えながら繰り返し試そうとしている姿を見取ります。

中3　1単位時間（50分）　生成AIの使い方つき

交流の前にAIとリハーサル！聞かれそうな質問・聞きたい質問

海外の中学生とのオンライン交流の前に、AIを相手役にして質問を予想し、自分の言葉で答えを準備します。

手順・ワークシート

ねらい

交流相手に伝えたい自分の町や学校のことを整理し、相手からの質問に答えたり、相手に失礼にならない質問をしたりする準備ができる。

流れ

5分 交流の目的（自分の町や学校のことを伝え、相手の暮らしを知る）と日程を確かめます。先生が「沈黙が続いた交流」の場面を例に、準備の大切さを話します。

10分 【AIを使う】班で指示文を入力し、AIが出した質問を仕分け表で「答えられる」「準備が必要」「失礼・不自然」に分けます。入力に自分たちの名前・学校名・町名を入れないことを確認します。

10分 【AIを使わない】「準備が必要」に分けた質問への答えを、自分たちの言葉で準備します。AIに答えを作らせず、自分たちが本当に伝えたい町や学校のことを選びます（例：Our town is famous for pears. In summer, we have a big fireworks festival by the river.）。

8分 【AIを使う→人が確かめる】相手に聞きたい質問を班で考え、AIに「この質問は自然な英語か、失礼にならないか」を尋ねます。AIの意見と自分たちの考えを比べ、迷う質問はALTに確かめます。AIが相手の国について「みんな～だ」のような決めつけを言った場合は、なぜ注意が必要かを話し合います。

12分 【AIを使わない】クラスメイトを相手役にしてリハーサルします（3分）。質問に答えたあと、一言付け加えたり、相手に質問を返したりします。

5分 本番で一番伝えたいことと、相手に一番聞きたいことを一つずつ書きます。

評価

【思考・判断・表現】相手に伝えたい町や学校のことを選んで整理し、質問に答えたうえで情報を付け加えたり質問を返したりしているかを、リハーサルで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】相手のことを考えて質問の言い方を確かめようとしている姿を見取ります。本番の交流での姿も合わせて見取ります。

中3　1単位時間（50分）　生成AIの使い方つき

AI面接官でリハーサル、友達面接官で本番形式！スピーキングテスト準備

ルーブリックを確かめ、AIの追加質問で練習し、最後は3人組で本番形式のテストを回します。

手順・ワークシート

ねらい

「町のおすすめの場所」について、理由や具体例を加えて話し、相手の追加の質問にその場で答えることができる。

流れ

5分 【AIを使わない】ルーブリックを確かめ、先生とALTが「よい例」と「追加の質問で止まってしまう例」を短く見せます。

8分 【AIを使わない】おすすめの場所について、英語のキーワードだけでマップを作ります（場所・理由・具体例・おすすめの時期）。文章で書かないことがポイントです。

12分 【AIを使う】指示文を使ってAI面接官と練習します（約3分を2回）。可能なら自分の答えを録音して聞き返し、ルーブリックで自己評価します。AIに町名や学校名を伝えず、「my town」「a park near my house」のように話します。

5分 全体で、AIの追加質問で困ったものを共有し、時間をかせぐ表現（Let me see. / That's a good question.）や、短く答えてから付け加える方法を確かめます。

15分 【AIを使わない】3人組で面接官・受験者・評価係を交代しながら、本番形式で練習します（1人3分）。面接官役は追加の質問を必ず一つします。評価係は評価カードでよかった点と次の課題を一つずつ伝えます。

5分 AIとの練習と友達との練習を比べて、本番までに練習したいことを一つ書きます。

評価

本時は練習の時間とし、成績に入れる評価は後日の本番のテストで先生が行います。本時は【主体的に学習に取り組む態度】として、ルーブリックに照らして自分の話し方を振り返り、次の練習の目標を立てようとしているかを、ワークシートで見取ります。

12 指導案（試案）

2本

中学校第1学年　外国語　全6時間（本時は第3時）

Hello, New Friends! ～小学校で使った英語で、新しい仲間と知り合おう～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された「中1の初期段階では小学校の指導と関連させ、音声を中心とした活動を重視する」「3年間を通して発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導する」という方向性を先取りした、4～5月向けの試案である。次期学習指導要領はまだ告示前であり、本案は審議まとめの方向性をふ…

指導案の全文

本時のねらい

新しい仲間との共通点を見つけるために、小学校で慣れ親しんだ表現を使って、好きなものを尋ねたり答えたりしながら伝え合うことができる。また、好きなものを表す語の発音と綴りの関係に気付くことができる。

本時の流れ

- **5分** 導入 挨拶をする。前時の誕生日の活動を思い出しながら、教師の問いかけ（'When is your birthday?' など）に何人かが答える。ペアで1往復ずつ尋ね合う。
- **7分** 導入 教師の Small Talk（好きな食べ物について）を聞いて、内容についての質問に答える。何人かが教師から 'What food do you like?' と尋ねられて答える。本時のめあてを確かめる。
- **8分** 展開 【支える活動】「音と文字のたんてい」をする。①教師が好きなものを表す語（tennis、pizza、music など）を言い、生徒は最初の文字をミニホワイトボードに書く。②fish・English の最後の音、cheese・chocolate の最初の音を聞いて、それぞれ同じ音を探し、その音が2文字（sh・ch）で書かれることに気付く。③自分の好きなものを表す語をワードリストから探し、声に出しながら書き写す。
- **5分** 展開 教師とALT（または教師と生徒）のモデル会話を聞き、反応の言葉（'Me, too!' 'Really?' 'Great!'）と、'How about you?' で相手に聞き返す流れを確かめる。
- **13分** 展開 【コミュニケーション活動】「Find Your Match」をする。食べ物・スポーツ・教科・動物などから話題を選び、4人の仲間と好きなものを尋ね合う。共通点が見つかったら、ワークシートに名前と共通点をメモする。途中で一度活動を止め、うまく続いたやり取りを全体で紹介してから、相手を替えて続ける。
- **7分** 展開 見つけた共通点を、例を参考に1文で書く（例：'Kenta and I like basketball.'）。書いた文を、語句の色分け（だれが・どうする・なにを）で確かめる。
- **5分** まとめ 書いた文を何人かが発表する。振り返りシートに、使えた表現、音と綴りで気付いたこと、次に話してみたい仲間を書く。

PDF版：shidoan-chu1-hello-new-friends.pdf（ダウンロードコーナー）

中学校第3学年　外国語　全8時間(本時は第5時)

わたしたちとスクリーンタイム ～自分の意見を理由とともに伝え合おう～

中教審の審議まとめ(2026年10月5日)で示された、中学校の「社会的な話題」を生徒が自分と関連付けて捉えられる「身近な社会的な話題」とする方向性と、発達の段階に応じた「AIの適切な活用」を学習指導要領に位置付ける方向性を先取りした試案である。次期学習指導要領はまだ告示前であり、本案は審議まとめの方…

指導案の全文

本時のねらい

中学生のよいスクリーンタイムの使い方について、友達の考えを受け止めながら、自分の意見とその理由を整理して伝え合うことができる。また、生成AIが示した表現を吟味し、自分の伝えたいことに合うものを選ぶことができる。

本時の流れ

- **5分** 導入 挨拶をする。教師の Small Talk(昨夜のスクリーンタイムと、その結果どうなったか)を聞き、内容について簡単な質問に答える。
- **5分** 導入 本時のめあてと流れを確かめる。前時に書いた意見文の下書きと意見メモを読み直し、自分の意見を一文で言えるかペアで確かめる。
- **12分** 展開 【支える活動】生成AIで表現を見直す。①下書きから「うまく言えなかった一文」を選ぶ。②学校で利用を認めている生成AIに、その一文の別の言い方を、中学生が習った英語の範囲で二つ示すよう頼む。③示された表現を「意味が自分の言いたいことと同じか」「自分で説明できる表現か」「相手に伝わるか」の3観点で吟味し、採用・一部採用・不採用を理由とともに吟味シートに書く。
- **18分** 展開 【コミュニケーション活動】4人グループで意見を伝え合う。①一人ずつメモを見ながら意見と理由を伝える(1人1分程度)。②聞き手は 'That's a good point.' などで受け止め、'Why do you think so?' 'Do you have an example?' などで質問する。③全員が話した後、自分と違う意見に対して、賛成・反対・付け加えを伝え合う。途中で一度止めて中間指導を行い、メンバーを一部入れ替えて②③を続ける。
- **10分** まとめ グループで出た意見を「賛成・条件付き賛成・反対」に分けて付箋で黒板に貼り、学年への提案に使えそうな意見を全体で確かめる。振り返りシートに、①友達の意見を聞いて考えが変わったか・広がったか、②AIの表現を使った・使わなかった理由を書く。家庭学習の課題を確認する。

PDF版：shidoan-chu23-screen-time-opinions.pdf(ダウンロードコーナー)

13 現行の学習指導要領・解説（中学校）

PDF **中学校学習指導要領(平成29年告示)(本文)**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf

PDF **中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編**
https://www.mext.go.jp/content/20210531-mxt_kyoiku01-100002608_010.pdf

文部科学省の公式PDFです(クリックで開けます)。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る